

## Clinical outcome after Misago™ nitinol stent implantation

Tajimi Hospital, Japan

Yuichiro Yamase

**【目的】** 当院における自己拡張型ナイチノールステント Misago™ の臨床成績を評価した。

**【方法】** 当院において 2013 年 3 月から 2013 年 12 月までに Misago™ を留置した 21 症例 24 病変を抽出し、患者背景や臨床結果などを後ろ向きに検討した。経過観察期間が 6 か月未満の症例は除外した。

**【結果】** 対象症例は 16 症例 19 病変で、観察期間は平均  $10.9 \pm 1.7$  か月であった。平均年齢は  $77.3 \pm 9.4$  歳、男性は 13 例(81.3%)であった。全例で喫煙歴を有しており、糖尿病が 10 例(62.5%)、高血圧が 14 例(87.5%)、脂質異常症が 8 例(50.0%)、透析が 4 例(25.0%)、膠原病が 2 例(12.5%)であった。Fontaine 分類では 4 度が 1 例(6.3%)であった。病変はすべて浅大腿動脈(SFA)であり、完全閉塞は 13 病変(68.4%)であった。病変あたりの留置ステント本数は  $1.6 \pm 0.8$  本で、2 本留置、3 本留置がそれぞれ 4 病変(21.1%)ずつであり、ステント径は  $6.4 \pm 0.5$ mm、ステント長は  $148.4 \pm 86.5$ mm であった。足関節上腕血圧比は術前  $0.59 \pm 0.16$ 、治療直後  $0.84 \pm 0.19$ 、6 か月後  $0.82 \pm 0.21$  で、術前と比較し有意な改善を認めた(術前 vs.治療直後  $p < 0.01$ 、術前 vs.6 か月後  $p < 0.01$ )。ステント内閉塞 1 例(6.3%)、ステント内閉塞+標的血管再血行再建術(TVR)1 例(6.3%)、ステント内閉塞+TVR+患側趾切断 1 例(6.3%)であり、いずれも背景に透析・膠原病のいずれかを有していた。

**【結論】** 透析・膠原病以外の症例では、SFA に対する Misago™ の治療成績は良好であった。